

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	- (事務局用)	データから農業のポテンシャルを発掘！ スマート農業『トカイナカ“KAKOGAWA”』を実現したい！	兵庫県加古川市
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	トカイコガワで「カワイイ」農業に挑戦！		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 (公開)	TEAM トカイナカコガワで「カワイイ」農業		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	<u>2</u>	
メンバー数 (公開)	8 名		
代表者 (公開)	岸口 萌桃		
メンバー (公開)	川向 肇		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

確認後 OK なら右に○印を記入⇒○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいで結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

加古川の都市近郊農業地域としての魅力を「カワイイ」をキーワードに発信

トカイナカコガワとしてのトカイナカコガワ魅力の TikTok など若者向けツールでの発信

トカイナカコガワ（トカイナカとしての加古川市）は、都市近郊農業地域であり京阪神地区への野菜、花き、果物（イチジク・カキなど）の産地として一定の地位を占めています。また、営農に関する支援機関として兵庫県農業改良普及センターや近隣市にある県立農業技術センター・農業大学など、先端的な農業技術へのアクセス環境なども充実しており、充実した営農支援や様々な農業技術と農業情報へのアクセスも良いという特徴があります。市内には水量豊かな母なる川・加古川や美しい自然環境があると同時に、神戸製鋼加古川製鉄所や川崎重工業（株）加古川工場などその関連企業といった多数の安定した勤務先もなりうる事業所を抱えています。加えて、医療関係施設も充実しており、市内に加古川市民病院・兵庫県立加古川医療センター・神鋼加古川病院などがあります。このようにトカイナカコガワは、都会的な環境が充実しつつも、農業を営む上では非常に有利な地域であると考えています。

さらに京阪神地域に JR などを利用し 1 時間でアクセス可能であるトカイナカコガワならではの農業の可能性と農業地としての魅力は、残念ながら広く認識されているとは言えません。これらの可能性と魅力をアピールするため、多くの若年層の視聴者が期待できる TikTok などのソーシャルメディアを活用し、「カワイイ農業やってみたチャンネル」や「カワイイ農業体験チャンネル」などのチャンネルを作り、農業に関する短い TikTok 動画を兵庫県立農業高校農業クラブのメンバーが作成し、トカイナカコガワでの魅力と実際を発信する事を考えています。具体的には、兵庫県立農業高校の生徒が実際の営農の現場で農作業などの実践を行いながら農業の魅力を伝え、若年層の新規農業者の増加につなげたいと考えています。これらの TikTok 動画では、新規営農者が具体的に参考にできるような情報提供することも計画しています。また、兵庫県立農業高校の生徒として地元の生徒が複数名在籍していますので、地元の生徒へのインタビューを行い、若者から見た農業の魅力についての発言を TikTok 等で発信することを考えています。高校生が発信することで、若者にとって親近感がわくことで、農業への新規参入のための敷居を下げ、トカイナカコガワの魅力をライブ感を持って訴えられると確信しています。

地元ならではの 農業者のヒューマンネットワークの活用

加古川市にある兵庫県立農業高校は、1899 年の兵庫県農学校としての開校以来、多数の人材が兵庫県内で活躍しておられます。加古川市内で営農しておられる卒業生はそれほど多くはありませんが、トカイナカコガワでは都市近郊型農業も盛んに行われており、市内には、様々な特徴を持つ営農組合など農業生産法人などがあり農業生産を行っておられます。トカイナカコガワでのこれらの様々な人々とのヒューマンネットワークと連携しつつ、トカイナカコガワでの様々な魅力と可能性の多くの人々にアピールしていきたいと考えています。

新規就農者にとっても安心・安全が充実した環境であることを広くアピール

加古川市では、安心安全のまちづくりのために様々な政策を実施しておられ、小さいお子さんから高齢者までの様々な人々の安心・安全な生活を実現するため、見守りカメラや BLE タグの検知器などが市内の各所にかかりの密度で設置されており、さらには、個人がお持ちのスマートフォンにインストールされる加古川アプリでの BLE タグの検知など ICT 活用した安心安全なまちづくりに取り組んでおられます。このように小中学生の通学時の安全確保への配慮などもされており、子育て中の新規に農業に取り組まれる方々が子育てをされる際にも、相当の安全性が確保されていることなども

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

地図などを通して確認してもらえようと思っています。

トカイナカ加古川での「カワイイ」農業をアピール

兵庫県が公開している 2020 年の農林業センサスによる基幹的農業従事者（個人経営体）の兵庫県全体での平均年齢は 70.7 歳であり、**トカイナカコガワ**での同農業従事者の平均年齢は、71.7 歳でした。農業は高齢者が主に従事しておられる産業というイメージが先行しており、若者にとって大きな魅力がある職業とはいえない部分があります。そこで、若者にも関心を持ってもらえるように①残念ながら、**トカイナカコガワ**にも実際に不耕作地があります。**トカイナカコガワ**の北部の休耕地では、コスモスを植えることで、コスモスが咲くシーズンには近畿圏だけでなく全国から、野鳥を撮影する写真家や多くの観光客を集めています。そのような活用方法に加えて、休耕地を活用したフェスやマーケットを開催することで、地元の食や文化、地元の農家や市内の農業者の皆さんや兵庫県立農業高校で生産した新鮮な農産物などに触れ、直接多くの人に知ってもらえるような交流イベントやフェスティバルなどを通して、**トカイナカコガワ**の魅力とその実力を体験するイベントを開催することを考えています。様々のフェスや交流イベントなどを通して、**トカイナカコガワ**の農地としての魅力と実力をアピールすることを考えています。このようなイベントの開催により、新規就農についてのアドバイスや、実際の経験持つ人々との交流の場づくりを行う予定で、様々な方法で**トカイナカコガワ**での「カワイイ」農業の可能性と農業の魅力を発信することを考えています。

作業着のデザインの製作②デコった鍬や鎌のような「カワイイ」農機具の製作③トラクタやコンバインやトラクタなどをアニメキャラなどによるラッピングした「カワイイ」農業機械の製作④地元の肥料会社など県立農業高校生との共同開発のような形で、ピンクの肥料でハート形に覆った種子の開発や銀色の星型の肥料の開発などを考えています。これらを TikTok で発信するとともに、本年度兵庫県立農業高校も参加した SDGs フォーラム@みとろフルーツパークなどや、その他加古川市の「かわまちづくり」などの**トカイナカコガワ**で開催される各種のイベントで紹介することで、若者にアピールできるような「カワイイ」農業を発信することを考えています。

休耕地を活用したフェスやマーケットでのトカイナカ加古川の魅力と実力をアピール

残念ながら、**トカイナカコガワ**にも実際に不耕作地があります。**トカイナカコガワ**の北部の休耕地では、コスモスを植えることで、コスモスが咲くシーズンには近畿圏だけでなく全国から、野鳥を撮影する写真家や多くの観光客を集めています。そのような活用方法に加えて、不耕作地を活用したフェスやマーケットを開催することで、地元の食や文化、地元の農家や市内の農業者の皆さんや兵庫県立農業高校で生産した新鮮な農産物などに触れてもらえるような交流イベントやフェスティバルなどの開催を考えています。具体的には、そのイベントなどで、「カワイイ」作業着コンテストや「デコった農機具」コンテストなどのフェスや交流イベントなどを実施し、**トカイナカコガワ**の農地としての魅力と可能性と「カワイイ」農業とを体験してもらうことを考えています。このようなイベントの開催にあたって、新規に農業を始める際のアドバイスができるよう、実際の経験持つ人々との交流の場づくりをすることを考えています。

このサービスの新規性

新規に農業に参入しようとする人々にとっての営農関連の情報だけでなく、**トカイナカコガワ**での「カワイイ」農業の可能性や実際の農業者の生の声や姿に気軽に触れる機会を時間や場所の制約を受けることなく提供する方法を構築します。これらを通して**トカイナカコガワ**での「カワイイ」農業の魅力を伝えたいと思っています。

このため、営農に関する各種コンテンツを整備しつつ、フェスなどのイベント情報やオープンデータなどを活用した**トカイナカコガワ**を取り巻く様々な農業関係に関する空間的な情報をマップの形で集約して提供するポータルサイトを構築し、**トカイナカコガワ**発の「カワイイ」農業を提案し、新規に農業に参入してくれる若い人々を増やすことにつなげていきたいと考えています。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

トカイナカコガワで「カワイイ」農業の魅力を発信することで、農業について若い人々が持っている固定概念をひっくり返し、加古川市内での若い農業者の仲間を増やし、加古川市内の農業者の若返りにつなげたい。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

トカイナカコガワ発の若い新規就農者にアピールする農業の模索

加古川市内にある兵庫県立農業高校の農業クラブの活動として、次年度以降 TikTok 内で発信する農業者の生の声に触れられるような動画コンテンツや「カワイイ」農機具や「カワイイ」作業着等の試作などを行います。また、県内の肥料メーカーさんなどと協力しつつ、「カワイイ」肥料や種子などの形状等の試作に取り組むことを予定しています。

これらの「カワイイ」農機具・肥料・種子などの試作品の展示を、次年度に加古川市内で開催される各種イベント、例えば、「加古川リバーサイドフェスタ」・「SDGs フォーラム@みとろフルーツパーク」・「草刈りフェス」・「志方東コスモまつり」などで兵庫県立農業高校の生徒が実施することを想定しています。独自開催する不耕作地でのイベントやフェスなどで、「カワイイ」作業着コンテストなどを実施することで、若年層に農業の魅力をアピールするとともに、県立農業高校で生産した農産物の販売などで若年層の農業者との交流イベントなども考えています。

トカイナカコガワの現状をマップで一覧的に確認できる情報提示サイトの構築

また、兵庫県立大学川向研究室では、今年度中にこれまでの GIS に関する申請メンバーの技術的蓄積を生かし、WebGIS 上のシステムとして、加古川市の就農に関する各種の統計データなどを利用し、従来用いられてきたグラフや表だけではなく、図 1 に示した加古川市の農業者の高齢化状況や、ほかにも水利へのアクセス条件、地域別の主要農作物などを地図表示し、トカイナカコガワの魅力を発信するサイトの構築を予定しています。メンバーの支援にあたる兵庫県立大学川向研究室では、図 1・図 2 に示すような加古川市の農業に関するオープンデータを

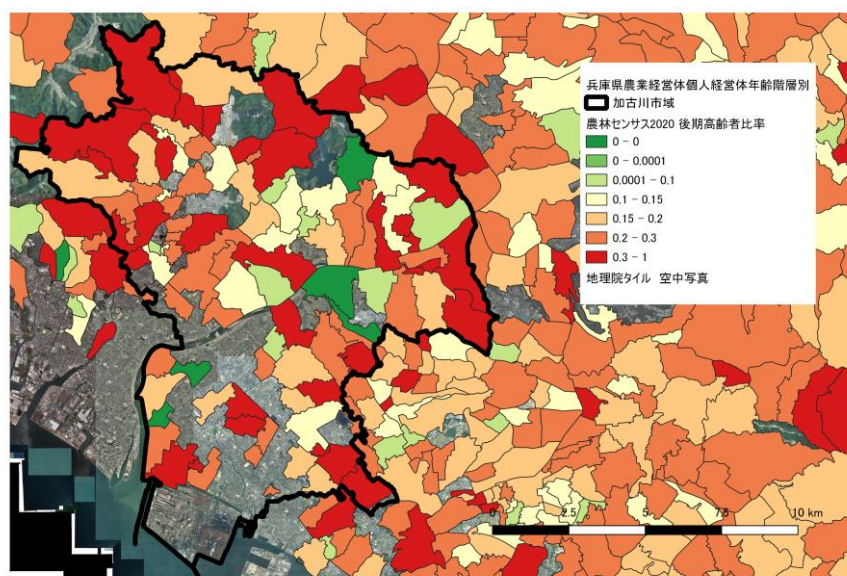


図1 2020年の農林センサスの結果による加古川市とその周辺の農業者における後期高齢者の比率マップ

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

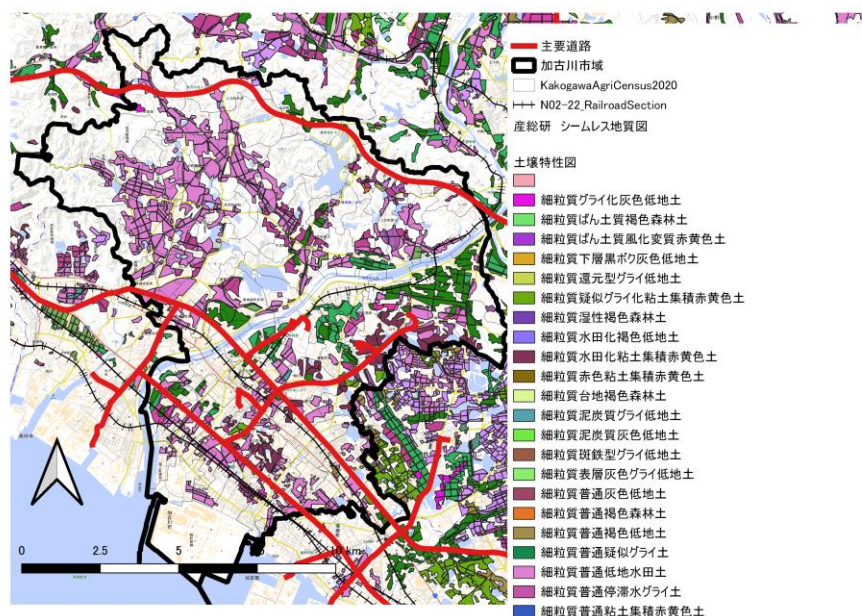


図2 加古川市内の農業土壌に関するマップ

活用した各種のインタラクティブな Web マップシステムを構築し、加古川市の魅力を発信と加古川市内の農業のポテンシャルを示すための複数のデータを重ね合わせて情報利用ができるような Web マップシステムを作成し、公開するためのサイトを作成・運営します。この Web マップシステムサイトにより、兵庫県立農業高校が実施する不耕作地でのイベントやフェスなどのイベント情報、また、そのイベントで紹介する「カワイイ」作業着・農機具シリーズや「カワイイ」肥料などについての Tiktok 動画などのリンク付けを行い発信します。また、同 Web マップシステムサイトで加古川市や JA 兵庫南などの営農に関するイベント情報などについても地図と関連付けながら提供する予定です。

このため、兵庫県立大学川向研究室では学部生の卒業研究の一環として、国土交通省や、総務省統計局、兵庫県、加古川市が提供しておられるオープンデータを活用して、加古川市内の営農にかかわる様々な長期間の変化が少ない安定的な空間データベースを構築し、加古川市や、加古川市内の農業法人、JA などと連携しつつ加古川市内で開かれる新規就農関係に関するイベントや「カワイイ」農業に関するイベントやフェス、直売所、直売会や農業関係の催事などの動的な情報についても公開する予定です。このための情報提示基盤としては、ArcGIS Online を利用して加古川市の農業地域としての魅力や課題を示す Web マップシステムの構築を 2024 年 7 月末ごろまでに構築することを予定しています。

例えば、現段階で作成済の WebGIS ベースのストーリーマップとして提供するマップの例としては図 1 の地域別高齢化マップや図 2 の農業土壌に関するようなマップなどの営農に関連する各種マップです。これらの情報をマップ表示したうえで、一元的にポータルサイトとして提供することで、現状の地域別の営農者の高齢化などの課題が明確になると同時に、水利システムとその利用の可能性や、土壌や気象条件といった営農に関する基本的な情報に加え、トカイナカコガワでの「カワイイ」農業のイベント情報などを含め総合的に提示するシステムの構築を予定しています。さらに、県立農業高校農業クラブと兵庫県立大学川向研究室とがコラボレーションすることで、デジタル田園都市としてのトカイナカコガワでの「カワイイ」農業の可能性と農業地域としての魅力とポテンシャル・現状を客観的なデータをもとに発信しアピールすることで、若年層の新規に農業に取り組もうとする若い人々にトカイナカコガワでの「カワイイ」農業の魅力をアピールすることを考えています。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

アイデア提案の理由

日本全体でも高齢化が進んでいますが、その中でも農業者の高齢化は著しいものがあります。先にも触れたように農林センサス 2020 の結果によれば、加古川市内の基幹的農業者の平均年齢は 71.7 歳となっています。このような現状を解消するため、加古川市での新規農業の若年層の農業者が増加するような取り組みは、加古川市の農業の維持や発展のために欠かせないものであると考えています。また、加古川市は京阪神地域への重要な葉物野菜やいちじくなどの果物類の供給地であることを考えると、加古川市において都会に近い利点を生かした農業地としての能力を維持することは重要であり、その可能性は少なくないと思います。

また、全体の高齢化だけでなく、上の図 1 で示したように後期高齢者が農業者として活躍しておられる地域も少なくなく、特に加古川市の北部などでは農業者に占める後期高齢者の比率が高いため、極めて近い未来に将来の後継者難が予想される地域が加古川市内の各地に点在しています。

このまま、若い農業者が新規に農業者としての参入に伴う農業の継続がなされないと、これまで先人が努力して開発・維持されてきた農地がみすみす耕作放棄地となり、営農されないことでこれまでの何百年にわたる努力が水泡に帰す可能性もないわけではありません。

さらに、農業者の高齢化に伴い耕作放棄地が増えることは、雑草の繁殖、イノシシやアライグマなどの野生生物の生息地になることなどを通して、耕作放棄地の周辺の農地での耕作が一層困難になり、さらなる耕作放棄地の増加につながります。

さらに、加古川市の市民意識調査令和 4 年版の報告書によれば、加古川市内の農業の振興について、市民意識調査の結果からは、重要度が高い割に満足度が低いという結果になっています。その意味で、加古川市での農業振興の成果について市民の皆さんの意見としては、今後改善する必要がある項目の一つといえます。

このアイデアの独自性と特徴

従来の農業情報は、既存農業者向けに情報提供されていることが多く、新規に農業に参入しようとする人々にとってはその意味や価値が分かりにくいことが少なくありません。また、農業者にとっての農業情報の利用については、ご自身が経営する圃場や管理する圃場の情報があれば十分であることもあり、これまで農業情報として利用されてきた情報としては、狭い範囲に関する土壌や水利条件、降水量や気温といった気象条件、圃場での出穂状況や葉色といった情報などが利用されてきました。

このため、これまでの農業情報は、すでに圃場で経営や管理など農業に従事しておられる方や農業法人の方が個別に集められた特定の圃場や特定の地域だけに関する狭い範囲について情報が多いという現状となっています。しかし、これから農業に新規参入しようとする場合、複数の収納候補地を比較して検討し、新規に収納する地域を検討しようとする場合、地域に関する情報を一元的かつ一覧的に確認したり、複数の情報を統合的に利用することで、比較検討することが困難な状況にあるように思います。

新規に農業に参入を試みようとする地域に居住していれば、地域の気象や土壌と言った営農に関する情報はまだ比較的アクセスしやすいといえるものの、地域外からの新規に農業に参入しようとする人々にとっては、これらの地域の営農に関する様々な情報に容易にアクセスすることは非常に困難でした。

一方で、多くの企業などではテレビ CM やソーシャルメディアなどを含む Web を活用した情報発信を行い、その魅力が発信されていますし、組織であるということもあり、組織としての新規採用や中途採用といった人材募集に関する動画コンテンツなどが充実しています。これらの充実状況と比べ、農業では、一部の農業法人を除いて、全体として、新規に農業に参入するために必要な情報発信や関連情報の整備状況は十分とはいえず、また農業の魅力と可能性を発信することができていません。これまでは、特に個別の農家が情報発信する機会やその地域での農業の可能性を自らの声で届けられる機会は限られてきました。この結果、新規に農業に取り組むことを希望する方が現地での説明会などを中心とした情報収集を行う場合、より広い範囲の候補地に関する土地の特性や水利環境などに関する情報を体系的・一覽的に収集し、比較し、検討するためには多くの説明会に参加し、情報を収集し整理するための努力が必要でした。

特に、農業が土地という空間的資源を利用することもあり、空間的な関係性や資源を会話やパンフレットなどの文字で説明することには限りがあります。そこで、農業という土地に根差した産業の特徴とそれに関する情報提供手段として、空間情報を提示する能力に優れた WebGIS に着目し、会話やパンフレットの文字だけでは伝えにくい各種の土地や地域での営農に関する様々な空間的情報を集約し、新規に農業に参入しようとする希望者に提供することを考えています。このようにして、それぞれの地域の営農に関する具体的な状況伝えることができるようになります。このようにすることで、**トカイナカコガワ**では都会的な側面へのアクセシビリティもあり、農業地としてのポテンシャルも高い加古川市の農業環境を広く伝え、加古川市内での新規に農業に参入する人々を増やすことにつなげたいと考えています。また、農林センサスなどのデータも活用し、現状の加古川市での農業者の状況を伝え、高齢化が進んだ地域での若年層の新規に農業に参入する人々の増加につなげたいと考えてます。

またそのためにも、「**カワイイ**」農機具や肥料・作業着・農業機械など、従来になかった若者へのインパクトのある様々な試みを実施したいと考えています。その取り組みを、TikTok などの SNS 上での動画を WebGIS 環境とリンクさせ、各種情報へのアクセシビリティを改善することで、リアルイベントやフェスなどでの交流機会などを通して、**トカイナカコガワ**発の「**カワイイ**」農業の可能性を広げていきたいと考えています。

また、本申請書で紹介したアイデアを他地域にも広げ、深刻な高齢化のため農業生産が危機にさらされる可能性がある日本の地域農業の活性化と、各地域での新規の農業への参入者の増加とその算入された方の継続的な農業経営の意欲向上につながることを期待しています。

実現したい理由

このアイデアを実現したい理由としては、現状での日本の農業生産者の深刻な高齢化とそれに伴う地域農業の担い手不足があります。これについては、加古川市内でも同様で、本来優良農地である農地が様々な要因により耕作がされないまま不耕作地になっている圃場が散見されます。さらに、農業地域は、圃場で耕作、農業生産を行う営農者がおられて初めて農業地域であり続けられること、さらには、耕作が行われてこそ持続的発展ができるという農業特有の側面に着目し、加古川市の農業を持続的発展可能性のある農業とすることが重要であると考えています。これまで加古川市内で行われてきた水田耕作や麦・大豆といった土地利用型農業の継続的な実施がさらに困難になることに加え、近郊農業としての花卉や野菜・果物類の聖餐といった農業生産の将来を担う人材不足の結果、先人が苦勞して取り組んでこられた各種の農業生産のための耕作地の維持だけでなく、これまで多額の予算が投入されてきた土地改良事業の成果が水泡に帰しかねない状況にあるという危機感があるからです。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきま<

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

これまでの活動の流れ

2004年4月から現在

兵庫県立農林水産技術総合センター・同酒米試験地と兵庫県立大学との共同研究の実施

2016年から現在

加古川市加古川市企画部情報政策課（現政策企画課）とのオープンデータを利用したまちづくり及びスマートシティ構想への支援・協力

2023年10月から現在

兵庫県立大学社会情報科学部と県立農業高校との交流

実現する主体

兵庫県立農業高校農業クラブと兵庫県立大学社会情報科学部 川向研究室の有志による活動共同体

実現に必要な資源

上記の実現主体の中心として、兵庫県立農業高校農業クラブと兵庫県立大学が協力しながら、様々な取り組みを行っていきます。主に「カワイイ」作業着などの試作や「カワイイ」農機具などの製作、不耕作地でのイベントに関する経費に関しては、兵庫県立農業高校が行い、その予算としては、おおむね30万円程度を予定しており、有志からの資金提供に加え、クラウドファンディング等で資金を集め、実施する予定にしています。

TikTokなどの動画撮影に関する必要な機材は、必要に応じて兵庫県立大学の川向研究室が管理する設備などを利用することで、極力費用の発生しない方法で実現することを考えています。各種の広報費用に関しては、WebやSNS、Noteなどの各種ソーシャルメディアを利用するため、多くの費用は掛からず、チラシなどの印刷については1万円前後を予定しています、これは十分クラウドファンディングで賄える範囲であると考えています。

このような共同して活動する際の支援組織として、川向研究室の学部生の有志が各種調整にあたりつつ活動共同体の原型になる組織の継続的運営にあたります。また、WebGISなどによる加古川市内での新規営農希望者への情報提供のサービスの実施にあたっては、兵庫県農業技術センター等の関係機関が保有する土壌や調査研究結果などの各種データの提供を受けるとともに、加古川市のオープンデータ・国土交通省の国土数値情報ダウンロードサイト・総務省統計局で提供されているオープンデータなどを活用しながら、データ整備を進めていく予定です。運営に必要なデータとしてはオープンデータを主に利用し、WebGISについてもESRI社のArcGISOnlineの個人ライセンス（無料）を利用します。さらに、必要な空間的データの加工についてはQGISなどの無料のサービスやアプリケーションを利用し、極力費用の発生しない形での運営を予定しています。

不足する場合には、各種の農業関係についての公募型の助成金や支援金等の制度に応募して、調達する予定にしています。

実現に至るタイムプロセス

- 2023年10月 兵庫県立農業高校及び兵庫県立大学との広大連携プログラム・共同研究の開始
兵庫県立農業技術センターからの情報提供
- 2024年1-3月 加古川市内の県立農業高校生などへのインタビューなどコンテンツの整備
- 2024年4-9月 「カワイイ」農機具・「カワイイ」作業着の試作・不耕作地でのフェスなどの広報作業や実施計画
など準備
- 2024年8-9月 利用可能となった各種コンテンツの WebGIS への統合
- 2024年8-11月 加古川市の各種イベントなどでの紹介・チラシの配布
- 2024年10月-2025年3月 不耕作地でのフェスの実施